

# コスモス 4月号

第68巻 第4号

◆宮柊ニカレンダー(13) 四月の歌

晩春をまおそはる白き阪むかをかが向丘むかをかにいつもいつも見えて  
たそがれにけり  
歌集『群鶏』

晩春は春の終りを意味し、たそがれは昼間の終りを意味する。ものの終焉を表わす二つの言葉が一首に気だるい雰囲気をかもし出す。また向丘の「ま白き阪」は白い女体をかすかに連想させるところがある。それらが相まって、この歌は青春期の官能的なアンニュイを湛えた作品となっている。

初出は「多磨」昭和十三年六月号で、作者二十六歳。当時の作者をよく知る今村寛氏の談によれば、このとき住んでいた世田谷区の下宿からその「ま白き阪」がよく見えたそうだ。  
(高野 公彦)